

は外と一聲三度づ、まく、公方様御年の數に一粒増し大豆を三方に載せ差上る、則御祝被遊相濟て右の大豆を三方にのせ、詰合の面々江被下之、

〔日本歲時記七十二月〕晦日又除夜とい俗に隨て今宵儺豆をうつべし儺豆をうつ事、節分の夜する月晦日のよし、ふみに見え侍る、又もるこしにも金吾除夜進儺名とあれば、今宵その事をなすべし、

〔歲時故實大概十二月〕一節分立春の節の今宵門戸に鯛のかしらと柀の枝を挿て、邪氣を防ぐの表事とし、又炒大豆を升の器に入れて、夫を暗に打はやして祝ひ賀す、中按に、今宵大豆をま

くは、古人追儺の遺風なり、其追儺と云は除夜の儀にて、俗には大歲節分の夜の事にはあらず、されども俗習都鄙共に、今宵此大豆まく事を營み祝へば、是又俗に隨ひて爰に記すなり、

〔改正月令博物筌十二月〕節分按するに、昔は晦日に有たれども、晦日の夜は、來る年のまふけに事しげきゆへ、中世より右等の事を節分の夜なすとぞ、尙豆打爆豆、撒豆、福は内、鬼は外、禁中には、來る年の支に當る者つとむ、是を年男といふ、又豆を打事は、覽目を打といふ義也、唐土にも今夜赤丸と五穀をまく事、後漢書の註に出たり、赤丸とはあづきの事也、

〔稅苑日涉七〕民間歲節下立春前一日謂之節分、至夕家々燃燈如除夜、炒黃豆供神佛祖先、向歲德方位、撒豆以迎福、又背歲德方位、撒豆以逐鬼、謂之儺豆、老幼男女啖豆如歲數、加以一、謂之年豆、

〔隨意錄四〕方俗立春前夕、貴賤家々放擲熬豆、號呼曰鬼外福内、此未審起乎何時、蓋是原乎儺者也、禮季冬儺於國中、儺逐疫鬼也、論語所謂鄉人儺是也、漢世謂之逐除、荆楚歲時記云、十二月、村人並擊細腰鼓、戴胡頭、及作金剛力士、以逐疫、然擲熬豆者、未之有所稽、正月旦吞熬麻子大麻、則歲時記有之、亦是辟瘟疫氣云、

〔東都歲事記四十二月〕節分前日也今夜尊卑の家にて熬豆を散大戦鯛の頭を戸外に挿す豆をまく夜といふ、今夜の豆を貯へて、初雷の日、合家是を服してまじなひとす、又今夜いり豆を己が年の員に一ツ多く數へて是を服す、世俗今夜を年越といふ、